ふりがな　　もり　たかひと

氏 名　　森 宜人

1. 学歴

2000 年　3 月　一橋大学社会学部卒業
2000 年　4 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻修士課程入学
2002 年　3 月　同課程修了，修士（社会学）
2002 年　4 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程入学
2005 年　3 月　同課程修了，博士（社会学）

2. 職歴・研究歴

2003 年 4 月 － 2005 年 3 月　日本学術振興会特別研究員（DC）
2003 年 8 月 － 2004 年 10 月　ギーセン大学歴史学研究所近代史第 1 部門客員研究員
2005 年 4 月 － 2006 年 3 月　一橋大学大学院社会学研究科助手
2006 年 4 月 － 2009 年 3 月　関東学院大学経済学部専任講師
2009 年 4 月 － 2012 年 3 月　関東学院大学経済学部准教授
2012 年 4 月 － 2021 年 1 月　一橋大学大学院経済学研究科准教授
2020 年 4 月 － 2021 年 1 月　一橋大学社会科学古典資料センター准教授（兼任）
2021 年 2 月 －　一橋大学大学院経済学研究科教授
2021 年 2 月 －　一橋大学社会科学古典資料センター教授（兼任）
2022 年 7 月 － 2023 年 3 月　ハンブルク大学現代史研究所客員研究員

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

経済史入門，経済史 A，基礎ゼミ

（b）大学院

比較経済史，西洋経済史，経済史特殊問題，ワークショップ／リサーチ・ワークショップ（経済史）

B. ゼミナール

学部後期，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

「経済史入門」では，近年の経済史の代表的なテーマの紹介を通じて，経済史学のあり方を提示している。本講義の目的は，経済史を学ぶ上で必要とされる基礎的な知識や分析視角を受講生に身につけてもらうことにある。「経済史 A」では，近代ヨーロッパを事例として，都市化や工業化など現代社会形成の基礎となる社会構造の変動をテーマに取り上げ，その前提となる政治的・文化的枠組みにも着目する。本講義では，ヨーロッパ社会の歴史的位相を把握するだけでなく，地域研究に必要な分析視角を社会経済史の観点から提示することを目指す。「基礎

ゼミ」では，経済史の基本文献の輪読を行い，受講者に経済史研究の入門的な体験が出来る場を提供する。大学院の「西洋経済史」では，近代ヨーロッパ経済史に関する英語ないしドイツ語の専門文献の輪読を通じて，最新の研究動向に触れる機会を設ける。「比較経済史」では，経済史学の古典や最近の注目すべき文献を手がかりに，市場経済の展開過程を比較史的観点より検討している。

学部のゼミナールでは，3 年次の近現代ヨーロッパ経済史に関する文献の輪読と，4 年次の卒論執筆を通じて，現代社会が形成された歴史的経路を把握するとともに，歴史学的な思考方法を涵養することを目指す。大学院のゼミナールでは，履修者の研究報告にもとづく論文執筆の指導に重点を置き，1 次史料に基づく緻密な実証分析の方法を体得してもらう。

4. 主な研究テーマ

一貫した研究課題は，主に 19 世紀後半～20 世紀前半のドイツをフィールドとして，近現代ヨーロッパの社会変動を都市経済史の観点から把握することである。具体的な研究テーマは次の通りである。

（1）都市化と電力業の展開

フランクフルト・マム・マインの電力業の分析を通じて，都市自治体給付行政の歴史的特質を明らかにするとともに，都市への電力導入から電力の必需化にいたる都市電化のプロセスを辿り，近代都市形成の実像を明らかにした。この成果は，日本語単著及びドイツ語単著として上梓した。

（2）「社会都市」の政策理念

19/20 世紀転換期は，国家的社会保障が未整備な中，都市自治体が生活環境の物理的改善と社会政策の展開を通じて，住民に一定の生活条件を保障した「社会都市」の局面と位置づけられる。ドイツでは，「都市の社会的課題」とよばれる政策理念が「社会都市」形成の原動力となったので，この政策理念の思想的研究に取り組んでいる。

（3）都市失業保険の展開と「社会都市」・「社会国家」

ドイツで国家的失業保険が成立するのは両大戦間期のことであるが，都市レベルではすでに 1900 年代よりその萌芽がみられた。この都市失業保険の展開過程を，ベルリンなどの個別都市の事例に即して実態分析を行い，第一次世界大戦前後の「社会都市」と「社会国家」の重層的関係の解明を目指している。

（4）余暇をめぐる日独比較都市史

両大戦間期は，余暇の組織化が社会政策上の課題として国際的に大きな注目を集めた時期として知られる。その共時性の契機と社会経済史的意義を明らかにするため，全体主義的な余暇の組織化を推進させたドイツの歓喜力行団と日本の厚生運動に焦点をあて，都市史の観点から比較分析を行っている。

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書・編著

『ドイツ近代都市社会経済史』日本経済評論社，2009 年 2 月，1-276 頁。

Elektrifizierung als Urbanisierungsprozess. Frankfurt am Main 1886-1933 (Beiträge zur hessischen Wirtschaftsgeschichte Bd. 9), Darmstadt, November 2014, S. 1-132.

西沢保・森宜人（編）『福田徳三著作集第 10 巻　社会政策と階級闘争』信山社，2015 年 10 月。

森宜人・石井健（編著）『地域と歴史学―その担い手と実践―』晃洋書房，2017 年 11 月。

馬場哲・高嶋修一・森宜人（編著）『20 世紀の都市ガバナンス―イギリス・ドイツ・日本―』晃洋書房，2019 年 5 月。

森宜人（編）『福田徳三著作集第 18 巻　経済危機と経済恢復』信山社，2022 年 6 月。

『失業を埋めもどす―ドイツ社会都市・社会国家の模索―』名古屋大学出版会，2022 年 11 月。

Rainer Liedtke/Takahito Mori/Katja Schmidtpott (eds), *The Making of the 20th Century City. Towards a Transnational Urban History in Japan and Europe*, Franz Steiner: Stuttgart, forthcoming.

（b）論文（査読つき論文には*）

*「ドイツ近代都市における自治体給付行政とその諸問題－フランクフルト・アム・マインにおけるオストエンド・プロジェクトを事例に―」『一橋論叢』第 129 巻第 2 号，2003 年 2 月，93-108 頁。

*「フランクフルト国際電気技術博覧会とその帰結―近代ドイツにおける都市電力ネットワーク形成の一モデル―」『社会経済史学』第 69 巻第 5 号，2004 年 1 月，19-38 頁。

*「都市化時代の大都市と周辺自治体―世紀転換期フランクフルトにおける合併と電力網の拡張―」『一橋論叢』第 133 巻第 2 号，2005 年 2 月，138-154 頁。

*「ヴァイマル期ドイツにおける都市の電化プロセス―フランクフルト・アム・マインを事例として―」『社会経済史学』第 71 巻第 2 号，2005 年 7 月，49-70 頁。

「黎明期の都市電化―第二帝政期フランクフルトを事例として―」土肥恒之（編著）『地域の比較社会史―ヨーロッパとロシア―』日本エディタースクール出版部，2007 年 10 月，137-169 頁。

*「広域発電網確立期における都市電力業―ヴァイマル期フランクフルトを中心に―」『歴史と経済』第 198 号，2008 年 1 月，17-31 頁。

*「世紀転換期ドイツにおける都市政策理念―1903 年ドイツ都市博覧会を中心に―」『西洋史学』第 232 号，2009 年 3 月，23-43 頁。

「ドイツ社会政策学会における近代都市論―K.ビュッヒャーの所論を事例に―」関東学院大学経済学会『経済系』第 240 集，2009 年 7 月，24-42 頁。

*「『社会都市』における失業保険の展開―第二帝政期ドイツを事例として―」『歴史と経済』第 211 号，2011 年 4 月，3-12 頁。

*「ヴィルヘルム期ドイツにおける都市失業保険―大ベルリン連合を事例として―」『社会経済史学』第 77 巻第 1 号，2011 年 5 月，71-91 頁。

*「戦時失業扶助と『社会都市』―第一次大戦期ハンブルクを事例として―」『社会経済史学』第 80 巻第 1 号，2014 年 5 月，37-58 頁。

"Defending the municipal electric services against privatization: a case study of Frankfurt am Main during the Weimar period", Discussion Paper Series (Graduate School of Economics, Hitotsubashi University), No. 2014-12, September 2014, pp. 1-21.

「特集にあたって―現代都市の形成とガバナンス：英・独・日の比較史―」（馬場哲との共著）『一橋経済学』第 10 巻第 1 号，2016 年 7 月，1-5 頁。

「『社会国家』の形成と都市社会政策の展開―ワイマール体制成立前後のハンブルクにおける失業扶助を事例に―」『一橋経済学』第 10 巻第 1 号，2016 年 7 月，35-64 頁。

"From Luxury to Necessity: Frankfurt am Main as the Pioneer of Urban Electrification", Discussion Paper Series (Graduate School of Economics, Hitotsubashi University), No. 2016-12, December 2016, pp. 1-31.

"Communal Unemployment Insurance in Wilhelminian Germany: A Case Study of the Greater Berlin Administration Union", Satoshi Baba (ed.), Economic History of Cities and Housing (Monograph Series of the Socio-Economic History Society, Japan), Springer, 2017, pp. 67-85.

「『特殊ヨーロッパ的なるもの』から地域主義へ―増田四郎の地域史構想―」森宜人・石井健（編著）『地域と歴史

学―その担い手と実践―』晃洋書房，2017 年 11 月，205-227 頁。

*「近現代ヨーロッパ都市史における 20 世紀―「モダニティ」の変容を参照軸として―」『歴史と経済』第 237 号，2017 年 12 月，42-50 頁。

*"Die Entwicklung der städtischen Arbeitslosenfürsorge während des Ersten Weltkrieges: Fallstudie zur Hamburgischen Kriegshilfe", Moderne Stadtgeschichte, 2/2017, Dezember 2017, S. 112-132.

「ワイマール社会国家の成立と都市失業扶助の変遷―ハンブルクを事例として―」馬場哲・高嶋修一・森宜人（編著）『20 世紀の都市ガバナンス―イギリス・ドイツ・日本―』晃洋書房，2019 年 5 月，48-75 頁。

「現代都市史研究における都市ガバナンス論」（高嶋修一との共著）馬場哲・高嶋修一・森宜人（編著）『20 世紀の都市ガバナンス―イギリス・ドイツ・日本―』晃洋書房，2019 年 5 月，235-250 頁。

*「危機下の社会国家と都市自治体―世界恐慌期ハンブルクにおける雇用創出―」『社会経済史学』第 85 巻第 3 号，2019 年 11 月，25-47 頁 。

「トランスナショナル・ヒストリーとしての都市史の可能性―両大戦間期の日欧都市を手がかりとして―」『歴史と地理』第 728 号，2019 年 12 月，1-15 頁。

*「世界恐慌期ドイツにおける失業保険の『破綻』とその帰結―ライヒ公団と都市の相克を中心に―」『歴史と経済』第 250 号，2021 年 1 月，20-37 頁。

「アフター・コレラのハンブルク―エピデミックによる失業の発見と公共職業紹介所の展開―」一橋大学社会科学古典資料センター Study Series No. 77， 2021 年 3 月，1-56 頁。

「余暇の組織化をめぐるトランスナショナル・ヒストリー――全体主義的モデルの展開を中心に―」『一橋経済学』12 巻 1 号，2021 年 12 月，87-129 頁。

「福田徳三とドイツ歴史学派経済学―カール・ビュッヒャーとの関係を中心に―」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』42 号 2022 年 3 月，1-8 頁。

「統治と再分配の都市史―宗教・社団・市民社会―」『一橋経済学』13 巻 1 号，2022 年 9 月，1-4 頁。

「市民社会の変容と社会国家の形成―「福祉社会」論の比較史的射程をめぐって―」『一橋経済学』13 巻 1 号，2022 年 9 月，125-150 頁。

*"Introduction" (with Rainer Liedtke and Katja Schmidtpott), in: Rainer Liedtke/Takahito Mori/Katja Schmidtpott (eds), *The Making of the 20th Century City. Towards a Transnational Urban History in Japan and Europe*, Franz Steiner, forthcoming.

*"From Hamburg to Osaka? Organising Leisure through Kraft durch Freude and Kōsei Undō," in: Rainer Liedtke/Takahito Mori/Katja Schmidtpott (eds), *The Making of the 20th Century City. Towards a Transnational Urban History in Japan and Europe*, Franz Steiner, forthcoming.

（c）翻訳

ヴォルフガング・バウワー著（大津留厚監訳／森宜人・柳澤のどか訳）『植民都市青島 1914−1931 年―日・独・中政治経済の結節点―』昭和堂，2007 年 2 月〔共訳：第 1 部および第 3 部担当〕。

カール・ランプレヒト著（森宜人監訳／東風谷太一・志田達彦訳）『中世におけるドイツの経済生活―結語―』一橋大学社会科学古典資料センター Study Series No. 70, 2015 年 3 月。

フリードリヒ・レンガー（森宜人訳）『近代のメトロポリスを定義する―19 世紀中葉～20 世紀中葉の万国博覧会を手がかりに―』一橋大学大学院経済学研究科 CCES Discussion Paper Series. No. 63, 2016 年 3 月。

カール・ビュッヒャー著（森宜人訳）『現在と過去の大都市』一橋大学社会科学古典資料センター Study Series No. 73, 2017 年 3 月。

（d）その他

"Tagungsbericht: Comparative Studies on the Development of the modern City in Japan and Europe from the Perspective of Urban Governance" (jointly worked), in: Moderne Stadtgeschichte 2/2019, S. 140-143.

「三つの百周年にのぞんで」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』No. 41, 2021 年 3 月，1-2 頁。

「戦後歴史学の展開―上原専禄と増田四郎―」社会経済史学会編『社会経済史学事典』丸善出版，2021 年 6 月，39 頁。

「ヨーロッパ近現代都市」社会経済史学会編『社会経済史学事典』丸善出版， 2021 年 6 月，502-503 頁。

「書評：熊野直樹・田嶋信雄・工藤章（編著）『ドイツ=東アジア関係史　1890－1945―財・人間・情報―』九州大学出版会、2021 年」『現代史研』第 68 号掲載予定。

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

「危機下の社会国家と都市自治体―世界恐慌期ハンブルクにおける雇用創出―」社会経済史学会第 87 回全国大会自由論題報告，2018 年 5 月 19 日，大阪大学。

*"Die gleichzeitige Entwicklung der „modernen Stadt“ in Japan und Europa: Transnational vergleichende Studie zum „Urban Governance“", International Workshop "Japanese and European Urbanisation in Comparison", Universität Regensburg, 3. August 2018.

*"From Hamburg to Osaka: Development of the Kosei Undo on the model of “Kraft durch Freude”? ", International Workshop of the Gesellschaft für Stadtgeschichte und Urbanisierungsforschung "Comparative Studies on the Development of the Modern City in Japan and Europe", Humboldt University Berlin, 15th March 2019.

*「厚生運動は歓喜力行団（KdF）の模倣か？―余暇をめぐる都市ガバナンスの比較史―」第 3 回 HU 福祉国家セミナー，2019 年 4 月 25 日，一橋大学。

「厚生運動は歓喜力行団（KdF）の模倣か？―余暇をめぐる日独比較都市史―」「歴史と人間」研究会第 268 回例会，2019 年 7 月 13 日，一橋大学。

「ライヒ失業保険の『破綻』とその帰結―失業者救済をめぐるライヒと都市の相克を中心に―」2019 年度政治経済学・経済史学会冬季学術大会自由論題報告，2020 年 1 月 11 日，早稲田大学。

"The Totalitarian Manner of Organising Leisure in Japan and Germany: Kōsei Undō and Kraft durch Freude," 社会経済史学会第 90 回全国大会パネルディスカッション "Towards a Transnational Urban History of Japan and Europe: Making of the 20th Century City as Parallel and Interlinked Phenomenon"（Organiser=Takahito Mori), 2021 年 05 月 16 日，神戸大学（オンライン）。

"Kōsei Undō and Kraft durch Freude. A Transnational History of Leisure in Japan and Europe," PEEHS - AFHE Round Table at the XIX World Economic History Conference, 25th July 2022, University of Paris (online).

*"Towrads a Transnational Urban History in Japan and Europe. Modernity and Governance," (Organiser), 15th International Conference on Urban History: EAUH 2022, 2nd September 2022, University of Antwerp.

*"Organisierte Freizeit zur Förderung der „Harmonie der Völker“ (minzoku kyōwa): Die japanische Freizeit- und Erholungskampagne (Kōsei Undō) in Mandschukuo um 1940,"（Workshop der Geschichte Japans）, 1. Dezember 2022, Ruhr Universität Bochum.

*"Was förderte die gleichzeitige Entwicklung der Freizeit- und Erholungskampagne in Japan und Deutschland? Kōsei Undō und KdF unter der transnationalen Perspektive," Kolloquium der Forschungsstelle für

Zeitgeschichte Hamburg, 12. Dezember 2022, Universität Hamburg.

*"Export und Re-Export der organisierten Freizeit: KdF in Südosteruopa und Kōsei Undō in Mandschukuo," Forschungskolloquium zur Europäischen Geschichte, 24. Januar 2023, Universität Regensburg.

*"Export und Re-Export der organisierten Freizeit: KdF in Südosteruopa und Kōsei Undō in Mandschukuo," Kolloquium am Institut für Neuere Geschichte und Zeitgeschichte, 25. Januar 2023, Johannes Kepler Universität Linz.

（b）国内研究プロジェクト

「失業をめぐる都市ガバナンスの史的研究―世界恐慌期ドイツを事例に―」，日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C），一橋大学，2017 – 2019 年度，研究代表者。

「両大戦間期の余暇をめぐる都市ガバナンスの比較史―歓喜力行団と厚生運動を中心に―」，日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C），一橋大学，2020 – 2022 年度，研究代表者。

「両大戦間期の余暇をめぐる都市ガバナンスの比較史―歓喜力行団と厚生運動を中心に―」三菱財団第 49 回人文科学研究助成，一橋大学，2020 - 22 年度，研究代表者。

「失業を埋めもどす―ドイツ社会都市・社会国家の模索―」日本学術振興会（科学研究費助成事業）研究成果公開促進費（学術図書），2022 年度，研究代表者。

（c）国際研究プロジェクト

「全体主義的余暇モデルの共時的展開をめぐる両大戦間期都市ガバナンスの日欧比較史」日本学術振興会（科学研究費助成事業）国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A)），2022 - 2024 年度，研究代表者。

（d）研究集会オーガナイズ

一橋大学経済研究所経済制度研究センター／経済発展研究会，2018 年 10 月 9 日，一橋大学。

C. 受賞

第 2 回社会経済史学会賞（社会経済史学会，2006 年）

第 5 回政治経済学・経済史学会賞（政治経済学・経済史学会，2010 年）

6. 学内行政

（b）学内委員会

社会科学古典資料センター専門委員（2016 年 10 月 – 2020 年 3 月）

入学試験実施専門委員（2018 年 4 月 – 2020 年 3 月）

（c）課外活動顧問

一橋大学体育会應援部長（2019 年 12 月 – ）

7. 学外活動

（a）他大学講師等

早稲田大学政治経済学部･非常勤講師（2013 – 2021 年度）

首都大学東京都市教養学部･非常勤講師（2014 – 2015／2018 年度）

東京大学文学部･非常勤講師（2017 – 2018 年度）

（b）所属学会および学術活動

社会経済史学会（幹事 2016 – 2022 年，理事 2016 年 –）

政治経済学･経済史学会（研究委員 2008 – 2011 年，編集委員 2011 年 – 2019 年，理事･研究委員長 2020 年 –）

ドイツ資本主義研究会（ADWG. N.F.）（事務局 2010 – 2012 年）

日本西洋史学会（第 67 回大会準備委員 2016 – 2017 年）

現代史研究会（運営委員長 2013 – 2014 年）

European Association for Urban History

（d）高校生向けの出張講義･模擬講義

「研究室訪問」駒場東邦高等学校，2016 年 3 月。

（e）その他（公的機関･各種団体･民間企業等における講演等）

「都市から読み解く近代ヨーロッパの経済史」世田谷市民大学，2016 年 9 – 12 月。

8. 官公庁等各種審議会･委員会等における活動

大学入学者選抜改革推進委託事業における人文社会分野歴史分科会委員（2016-2018 年度）

9. 一般的言論活動

「御大典記念図書館のこと―"TEMPUS FUGIT"のルーツを求めて―」『如水会々報』No. 1090，2022 年 6 月，12-13 頁。